

小松 みゆき



ベトナム

1992年に日本語教師としてベトナムに渡り、最初の授業で生徒の一人が残留日本兵の子息だったことをきっかけに、残留日本兵との交流、執筆活動を通じ、埋もれていた歴史であった残留日本兵の存在を明らかにした。2015年に「ベトナムの風にふかれて」を執筆し、同年には映画化された。2017年には天皇皇后両陛下ベトナム御訪問の際、元日本兵の家族との面会に尽力し、その後「元残留日本兵の子どもの日本訪問を支援する会」の代表兼コーディネーターとして招聘事業に関わり、13名の残留日本兵の子どもの訪日を実現させ、お墓参りができた人、父子の再会を果たした人もいた。

今やベトナムと言えば若い女性たちが観光地めぐりやカワイイ雑貨、ヘルシーなベトナム料理とアオザイファッションに夢中になるのが定番ですが、そこに残留日本兵の妻や子、家族が存命して居る事実はほとんど知られていないでしょう。

2017年3月、天皇皇后両陛下が平成最後の外国訪問の地としてベトナムを選ばれ「ベトナム残留日本兵」の妻子とご接見し、それぞれにやさしく声をかけられた瞬間からスポットが当たりだしました。そのとき私は、半世紀以上も止まっていた時計が急に動き出したような印象を受けました。

これを機に彼らはその年の秋、「父の国」日本訪問への道が拓けたことは長い間、苦難の道を歩んできた彼らへの大きな贈り物だったと思います。それは日本財団のおかげで実現しました。一部の方ではありますが墓参や家族との交流、再会もできました。これは儒教の国の彼らにとって「父親のルーツ」の大切さにふれ皆も声を上げて喜んでいました。この日本行きはNHK BS1「遙かなる父の国へ～ベトナム残留日本兵 家族の旅路～」という題で2018年3月24日に放映されました。

これからは残る人たちの消息探しや家族面会、墓参実現の仕事が残っています。

彼らはベトナム各地に点在し、交流もなくばらばらの状態でしたがこの日本行きを機に同じ境遇の人たちと情報を共有しあうようになりました。また子や孫の世代にもこの歴史を伝えていこうということで家族会をつくることになりました。

12月15日、古稀、還暦を過ぎた子どもらや大学生から40代の孫世代が会場に集まり家族会を結成しました。ハノイ市内をはじめ、遠くタイグエン省、バクザン省、ハイフォン市、ティンホア省からも。今後も「お墓は見つかったけれど墓参ができていない人」「父の消息が分からない人」などなどルーツ探しは続きます。

それにしても大人世代は1945年まで戦争があったことは歴史の教科書で知っていますが、ベトナムの孫世代になると「どうしてベトナムに日本軍がいたの?」「どうし

て祖父は残ることになったの?」「どうしてベトナムの独立戦争に日本人が参加したの?」と思っても、親世代はこれらに答えられません。彼らはずっと考え続けるでしょう。

私はこれまで彼らの存在を知ってほしい、父親探しやお墓探しに協力したい、という思いでやってきたのですが思いがけず賞を頂きました。きっと今後もずっと続けなさいという意味なのかなと思い、これからもできる範囲でお手伝いしてゆこうと思います。

ありがとうございました。



▲ある残留日本兵家族の食事風景（妻と子ども3人と孫たち）（2017年春）～この家族のおかげで交流が続けられた～



▲在ベトナム梅田邦夫大使に初めて残留日本兵の妻3人と子供、孫を紹介しているところ（2016年12月）



▲夢にまで見た「父の国」行きが実現し修学旅行生のように喜ぶ一行（羽田空港）（2017年10月）



▲雨の墓地で「お父さん」と墓を抱く息子（2017年10月）



▲天皇后両陛下にお目にかかった日の記念撮影（2017年3月2日）15家族

特定非営利活動法人キッズドア



理事長
渡辺 由美子

東京都

豊かな日本の中で、7人に1人の子どもが貧困である。

特に一人親（特に母子家庭）家庭は、2人に1人が経済的に苦しく、一般家庭に比べると教育格差が生じ、貧困の連鎖に陥る。その連鎖を断ち切り、すべての子どもが夢や希望を持てる社会を目指し、2007年理事長である渡辺由美子氏が「キッズドア」を立上げ、2年後の2009年内閣府の認証を受け「特定非営利活動法人キッズドア」を設立。

経済的に苦しい家庭の子どもに向けて、無料学習会のほか、居場所作り、様々な体験活動、人材育成・教育開発、被災地の支援等を大学生、社会人になった若者、シニアの方々がボランティアで活動している。2017年度は33事業62拠点、登録生徒数2,064、登録ボランティア数1,085の活動規模となっている。

特に、無料学習会で将来に大きく関わる中学3年生向けの高校受験指導「タダゼミ」学習会は、設立以来高校進学率100%を達成している。

いち早く日本の子どもの貧困に取り組み、子ども達に明るい未来を作っていくための活動を続けている。

（推薦者：内山 清一）

この度は、NPO 法人キッズドアに荣誉ある賞を頂きありがとうございました。懇談会や授賞式では、日本のみならず世界各国で活躍される受賞者の方々と接する機会をいただきました。法人を設立して10年目に入りましたが、諸先輩方の人生を通しての素晴らしい活動を知り、まだまだ頑張らなければと大変励まされました。

キッズドアの活動は、2007年に任意団体として開始しましたが、当時は、まだ一億総中流の意識が強く、まさか日本に貧困な子どもがいるとは誰も思っていませんでした。その後リーマンショックなどもあり日本の景気が悪くなる中で、子どもの貧困が少しずつ認知されてまいりました。同時に、全国学力テストの分析などから、親の所得と子どもの学力がひもづく「教育格差」も明らかになりました。

活動を始めた当初、「子どもの成績が低くて、このままでは公立高校に入れない。うちは母子家庭なので私立高校には行かせられない。高校受験の勉強を見て欲しい」というお電話を何本もいただきました。

「貧困家庭にお金を配ることはできないけれど、無料で勉強を教えることはできる」と大学生のボランティアを集めて、2010年夏に初めての無料学習会を始めました。おかげさまで、今では2,000名を超える子どもたちに無料の学習の場を提供しています。

また、2011年3月11日の東日本大震災以降は東北での活動も開始いたしました。現在も仙台市と南三陸町で子どもたちの支援を続けています。

「勉強に困っている子どもがいるなら」と始めた活動ですが、子どもを通して知った貧困家庭の状況は、想像以上に厳しいものでした。皆さん、パートの仕事を2つも3つも掛け持ちしても十分な収入が得られず、塾代はおろか、実は衣食住にも困って

いらっしゃる家庭も少なくありません。子どもたちに食事も提供する安全な居場所型の学習会や、企業のご支援をいただいで体験活動などにも力を入れています。

最近、キッズドアの無料学習会で学んだ子どもが、大学生になり、ボランティアとして参加してくれることも多くなってきました。先輩たちの姿を見て「自分も大学に行きたい」と新たな夢を持つ子どももいます。孤立し途方に暮れていたお母さんから「学習会に子どもが通うようになって家庭が明るくなりました。」と嬉しい言葉もいただいています。

キッズドアのビジョンは「すべての子どもが夢や希望の持てる社会の実現」です。今回の受賞を励みに、これからもビジョンの達成に向けて、ボランティアの皆さんとともに活動を続けてまいります。

理事長 渡辺 由美子



▲生徒とのコミュニケーション重視の学習支援



▲被災地支援（南三陸町で公営塾を運営）



▲無料学習会の風景（学生ボランティアによる寄り添い型）



▲芋掘り体験



▲英語に特化した学習会



▲自然体験

ひろはた自習・相談室



代表
内田 克代

神奈川県

「教育の格差をなくしたい」との思いから2013年、退職した教員たちが中心となり神奈川県秦野市の大根・広畑地区の小中学生を対象に無償の学習支援をはじめた。毎週月・火・水・金の放課後、1回1時間、原則1対1でそれぞれの子どもに合った支援を行っている。

なかには、不登校や発達に特性のある子もいて、他の子と曜日が重ならないようにするなど、継続的に個別支援を行うことで、子どもたちの自己肯定感や学習意欲を高め、確かな学力向上を図っている。現在、小学1年～6年生約20名、中学1年～3年生約10名がこの教室で学習している。

年々、他の地区から通う子どもの利用も増えている。

そのほか、もう一度勉強をしたいという大人のための「小中学校の教科書を学ぶ大人の講座」、「ボランティア養成講座」等開催し、秦野市教育委員会と連携して、地域の教育力の向上に尽力している。

学習支援の他、2018年1月から新たな事業として、他団体と共同して「みんなの食堂☆広畑」を設立し地域の子どもや高齢者を対象に、世代交流、孤食の防止、食育の推進など、食の大切さ、食を通じた地域の繋がりがづくりにも取り組んでいる。

(推薦者：秦野市長 高橋 昌和)

私たちは、神奈川県西部にある秦野市で学習支援活動を行う「ひろはた自習・相談室」です。児童数が少なくなった小学校の校舎内に併設されている市の介護予防・生涯学習施設である「広畑ふれあいプラザ」が活動場所です。

2000年にこの施設ができたことで、子どもたちと地域の大人たちが触れ合う機会がぐんと増えておりました。2013年、地域の大人たちの集まりでこんな声が挙がりました。

「今までいろいろ楽しませてもらった小学校に、今度は私たちが何か恩返しができるといいね」

「みんながいい大人になってほしい。それには、何よりも学力を伸ばしてやることではないだろうか」

「放課後に宿題を見てやろう」

「その前に、地域の大人に教科書に親しんでもらおう。大人のための『教科書を学ぶ講座』を開こう」

こんな話し合いから、ひろはた自習・相談室が生まれ、『大人のための教科書講座』も4回程開きました。

そして現在では、元教員だけでなく、退職した企業戦士たち、子どもが好きな主婦など指導者約20名、50名を超える小中学生が週2回通ってきています。一对一の緩やかな個別指導がどれほどの効果をもたらすのか、私たち指導者の悩みどころです。

ちょうど3年前の冬、受験シーズン真ただ中というのに公園で遊んでいる中学3

年生の集団に出会いました。その中の顔見知りの二人が、
 「僕たちも県立高校に行きたくなった、勉強を教えてください。」
 と訴えてきました。それから3か月の特訓を経て、県立高校に無事合格、その一年後
 町で出会うと、

「数学が学年で一番になったよ。」
 と明るい笑顔。もう一人も最近出会うと

「大丈夫！卒業できるよ。早く就職して父さんに楽をさせてやりたい。」
 そのほかにも、

「韓国の奨学金がもらえるようになりました！」
 「特待生の資格が取れて、自分の力で専門学校に行けます！」

等々、嬉しい便りが時々聞こえてきます。自立の芽が伸び始めるのは、高校へ入っ
 たらなのです。長い目で子どもたちを見守る必要性を感じております。

最近では、特別な配慮を要する子どもたちも通ってきています。私たちのできる範
 囲で、特別な時間枠を設ける、指導者同士が連携するなどの工夫をしながら、個別指
 導を進めております。

この度、名誉ある励ましの賞をいただきましたことで、今後もますます地域の大人
 が一丸となって、地域の子どもたちを支えていきたいと思っております。

代表 内田 克代



▲ボードを使って分かり易く教えます



▲わからないこともすぐに教えて貰えます



▲2018年最後の食事会



▲補習の様子



▲書き初め



▲添削中です

笠原 五郎



東京都

家族が引揚げ者であるため、特別な理解と関心を抱いて昭和50年後半から「中国残留孤児」問題にかかわってきた。

なかでも、日本の両親や親族が見つからないが、日本での生活を希望する帰国者を憂慮し厚生省に掛け合って、100人以上の帰国者の「身元保証人」となり、無事に日本で日本人として人生を送れるようにした。

そのほか、中国語を活かしボランティアで、帰国者の日本語教室「東京都城南地区帰国者日本語教室」(2001年)を毎週土曜に開き、先生3名、生徒20名ほど、8年間教えていた。

笠原さんは全て自費で賄い、日本語教室以外にも日本の習慣、花見会、修学旅行、忘年会等を開催し、帰国者たちの戸惑いや哀しみをきめ細かい愛情をもって支えてきた。

帰国者たちは、御年98歳を迎えた笠原さんを「日本の慈父」として慕い、生きる支えとなっている。

(推薦者：武井 優 宮崎 慶文「笠原さんへの感謝会」の世話人)

本日は、本年度社会に貢献されている方々を表彰するため、超一流のホテルに招待していただき、会長自身一人一人に表彰状を手渡していただき、誠に光栄でした。

会場では係員の親切な接待を受け本当にありがとうございました。

式場で会食中、ある貢献者の方から保証人制度について「どうしてあなた一人で100人以上もの保証人になったのですか」など質問を受け、説明し納得してもらいました。

保証人が必要なこと、住宅の保証、上級学校志望者の学費借入保証人、はりマッサージ専門学校3年間の学費借入などの保証人になり、自立後の返済の責任を見守って返済完了に協力しています。

呼び寄せ家族の保証人は在職証明書が必要で、退職者は資格がないので保証人になれません。有資格者をお願いするのも一苦勞です。入国後の就職予定を提出させました。

1998年、永年経営していたメッキ工場を廃業した時、中国から終戦の時別れた肉親を捜しに残留孤児たちが訪日してきました。私は終戦の混乱期に一兵卒でシベリアに抑留されたことがあり、何もできなかったので、今度こそ忘れていない中国語を使い手助けできると考え、すぐに会場のある代々木旧オリンピック宿泊棟へ行き、既に活動していた「中国残留孤児虹の会」に入会し、活動見習いと会長のカバン持ちを引き受けました。

虹の会の活動は広く、先ず訪日団を成田空港で出迎える団長に用意した花束を差し上げることから、都会のホテル内で宴会を催す、一般の方に呼びかけ参加してもらい、会食には中国語のわかるボランティアに応援してもらい、歌などを歌ってもらうことまでありました。

毎回冬にはボランティア団体よりお土産品の贈呈がありました。春には毎年帰国した人を招待して会食を共にしました。また所沢の定着センターで研修している人を慰問し、近況を聞きます。ここでは3ヵ月研修します。ここにいる間に帰国者の定着先の都市が決定します。

他の団体も活動していますが、資金が不足しており活動は消極的でした。

定着先は東京希望が多く、厚生省は各地方に分散させる方針でしたが、大都市には各種専門学校も充実しているので、自立のためにも都会だ！と譲らぬ帰国者もあり、身元引受人希望も都会人が多いのです。どうしてもセンターにいる間に定着先が決定せず、残る人も出て困って私たちの力を借りる役人がいました。

センター所長から「身元が判明した孤児が本籍の福島で断りを受けたので福島に行かず東京に定住したいと…こういう人を引き受けるのは大変なことだと承知している。相当の苦勞をすることはわかります。笠原さん、誰かに頼んでくださいよ」と身元引受人になってほしいと電話がありました。

困ったときばかり頼んでおいて、後のサポートはなく「あの人たち今どうしている」といった問い合わせもありません。お役人はセンターから出てもらえば後は引受人の責任で、自分たちの役目は終了したといった感じです。本当に引受人は苦勞しています。もっと温かい行政になって帰国者を安心

させていただきます…。

こんなことを書きましたが、悪口ではありません。本当の話です。

帰国者たちが団結して裁判を起こしたのは皆さん知っての通りです。帰国者は行政との交渉を永年ボランティアに委ねていましたが、日本語も上手になり自分たちの力を出して弁護士さんたちと協働で改善の交渉を始めました。国会議員の先生たちにも応援を頼み、先般国会裁定で終了。全国国会議員の賛成で裁定終了し、今では帰国者は日本に帰ってきてよかったと喜んで暮らしています。

裁判などやりたくありませんでしたが、いくら要請しても受け入れられずやりました。生活保護で遇されて誰が喜ぶと思いますか。

私が独自に行った個人の活動について書きます

工場を止めて倉庫として活用しました。2階には心ある人からもらい受けた背広などの衣類をクリーニングして集め、必要な人に差し上げました。1階には知人の電気屋さんや知人から中古品のテレビ、冷蔵庫、洗濯機などまだ充分使用できる電化製品を譲り受けて置いていきました。「脱水機が無いね、今度新型を買うから古いのをあげるよ」と協力してくれる友達に頭を下げて最敬礼しました。「何時から古物商人になった」と知人に冷やかされながら少しでもお役に立てばと思って活動しています。

近所の寝具屋さんにも助けてもらいました。当時は羽根布団が人気となり、綿布団が替わるときで布団屋も商売繁盛でした。古い布団は区役所で100円で引き取ってもらわずに、私の所に運んでくださり消毒して新しいカバーをかけて必要な人に差し上げました。

帰国者に最初に必要なのは寝具です。5人分も買う帰国者がいます。後から呼び寄せる家族のために、お金がかかっても買います。それでもやりくりして早く呼びたいのです。厚生省の方針はまず帰国して定着した人が自立してから家族を呼びなさいとの方針です。私たち引受人には帰国者を早く自立させるようにと指導員から要請されますが、無理があるので討論することになります。私は言うことを言って協力する主義です。早く自立させると言いますが、日本語も話せない人を誰が雇ってくれるのかと反論しました。指導員は上からの命令口調です。私たちベテランのボランティアはうるさいでしょうが、やることはやっているので強いのです。

どうして帰国者の支援活動をするのと尋ねる人もいます。丁寧に説明してわかって頂きます。昔、満州事変後に満州へ渡り、まだ治安が悪かったころ貧乏して向うで育てられたことなどを話し、中国語ができるので少しでもお役に立てばと思って…と話します。「そんなことをやっているんですか」「ええ、そうですよ」「裁判はどうなったの?」「まだ解決しないよ」などとお話します。

平均60歳以上生きている帰国者に新しい制度の恩恵を浴して欲しいのです。病死する人も出てきますから。帰国者が日本に帰ってきてよかったということになって欲しいです。永年の支援活動が終了する日を祈って。

私はボランティアの集大成として虹の会の副会長を辞めさせていただきました。西大井で80歳から始めた教室は独特の教室運営で8年も継続して皆様から喜ばれました。裁判終了まで続けると約束したことを守り、健康のためにも88歳で皆さんの了解を得て終了しました。大したこともできず心残りがありますが、皆さんに喜んで貰ったのは事実です。

今もずっと年2回会食して親睦しています。優秀な人たちはNPOに参加して副理事長や理事に選出されて活躍しており、私は嬉しいの一言に尽きます。

日中友好中国帰国者に幸いあれ。万歳！

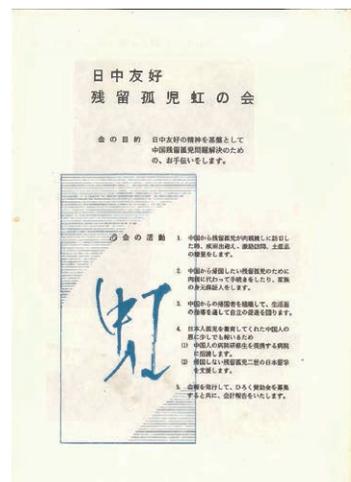
97歳の老人。失礼の段、年に免じてご容赦ください。



▲第18回中国帰国者日本語発表会



▲日本語教室終了式 生徒さんと



▲日中友好残留孤児虹の会のパンフレット

年度別表彰分野・受賞者数の実績

分野	年/回										小計
	1回 昭46	2回 47	3回 48	4回 49	5回 50	6回 51	7回 52	8回 53	9回 54	10回 55	
人命救助等	93	203	156	157	213	197	235	255	230	183	1922
国際社会への貢献											0
青少年育成・スポーツの振興	14	21	33	101	111	95	97	81	75	76	704
社会福祉への貢献	62	58	82	149	140	200	149	114	102	119	1175
文化の振興				3	7	11	5	9	11	11	57
地域社会への貢献	14	18	12	14	26	19	20	15	12	14	164
運輸交通への貢献	23	15	16	24		43	66	57	55	52	351
その他	34	35	87	97	114	95	105	135	139	105	946
小計	240	350	386	545	611	660	677	666	624	560	5319
開催日	3/23	11/10	10/26	9/26	12/10	11/5	11/8	11/7	11/7	11/21	
式典会場	①ホテルニューオータニ				②笹川記念会館						

分野	年/回										小計
	11回 昭56	12回 57	13回 58	14回 59	15回 60	16回 61	17回 62	18回 63	19回 平元	20回 2	
人命救助等	195	208	177	198	274	193	106	127	89	98	1665
国際社会への貢献										19	19
青少年育成・スポーツの振興	81	93	89	78	92	117	22	24	26	26	648
社会福祉への貢献	95	112	124	109	104	103	38	38	46	57	826
文化の振興	16	13	17	20	19	12	9	7	13	8	134
地域社会への貢献	15	12	12	15	8	13		3	7	11	96
運輸交通への貢献	42	40	38	45	35	31	55	54	69	76	485
その他	96	95	104	94	86	56	57	48	39	10	685
小計	540	573	561	559	618	525	287	301	289	305	4558
開催日	11/5	11/30	11/16	11/6	11/20	11/21	11/10	11/8	11/8	10/9	
式典会場	②笹川記念会館										

分野	年/回								小計	受賞者 合計
	21回 平3	22回 4	23回 5	24回 6	25回 7	26回 8	27回 9	28回 10		
人命救助等	101	82	34	15	47	21	27	16	343	3930
国際社会への貢献	13	17	14	4	8	5	5	6	72	91
青少年育成・スポーツの振興	40	54	44	29	22	25	28	32	274	1626
社会福祉への貢献	64	75	68	28	36	37	34	42	384	2385
文化の振興	11	15	10	3	8	10	10	12	79	270
地域社会への貢献	12	9	4	7	14	20	19	19	104	364
運輸交通への貢献	83	80	49	18	14	18	16	20	298	1134
その他	13	7	7	0	0	0	0	0	27	1658
小計	337	339	230	104	149	136	139	147	1581	11458
開催日	11/7	11/5	11/1	11/7	11/1	11/12	11/13	11/9		
式典会場	②笹川記念会館		③ホテル海洋			④東京全日空ホテル				

資料

分野	年/回	29回 平11	30回 12	31回 13	32回 14	33回 15	34回 16	35回 17	36回 18		小計	受賞者 合計
第一部門 緊急時の功績		6	5	6	8	5	4	5	2		41	
第二部門 多年にわたる功労		14	15	11	12	13	11	11	18		105	
第三部門 特定分野の功績 (海の貢献賞)			4	7	8	8	11	9	9		56	
(国際協力)			2	2	1	3	3	4	2		15	
(ハッピーファミリー)			2	2	1	0	2	0	0		7	
(21世紀若者)			0	0	2	1	3	1	2		9	
子ども読書推進賞			2	3	4	4	3	4	5		25	
小計		20	24	24	28	29	29	28	32		214	11672
開催日		11/10	11/22	10/29	11/19	11/4	11/15	11/16	11/20			
式典会場		④	①	④東京全日空ホテル								

※平成11年度より一般からの個人推薦を受付。
平成11年度より表彰分野別功績内容を、部門別功績内容とする。
平成12年度より第三部門を新設、テーマを持った特定の功績に対応する。
平成15年度より子ども読書推進賞を新設。

分野	年/回	37回 平19	38回 20	39回 21	40回 22	41回 23	42回 24	43回 25	44回 26	45回 27	小計	受賞者 合計
人命救助の功績		9	13	11	11	8		3	9	0	64	
社会貢献の功績		33	35	34	34	39		36	35	47	293	
特定分野の功績 (海の貢献賞)		1	2	3	5	2		2	0	0	15	
海への貢献の功績									3	2	5	
子ども読書推進賞 表彰式：6/26 会場：虎ノ門パストラル		1									1	
東日本大震災における 貢献者表彰 表彰式：5/1 帝国ホテル							128	12			140	
小計		44	50	48	50	49	128	53	47	49	518	12190
開催日		11/13	11/17	11/24	11/16	11/21	5/1	11/25	12/1	11/30		
式典会場		④ ANA インターコンチ ネンタルホテル				⑤帝国ホテル						
12190												

平成19年度より分野名を変更。子ども読書推進賞は最終回。
平成24年度は東日本大震災における貢献者を表彰。
平成26年度より特定分野の功績（海の貢献賞）は海への貢献の功績に変更。

分野	年/回	46回 平28	47回 28	48回 29	49回 29	50回 30	51回 30				小計	受賞者 合計
人命救助の功績		9		11		11	8				39	39
社会貢献の功績		11	51	17	53	29	32				193	193
小計												232
開催日		7/1	11/28	7/21	11/27	7/6	11/26					
式典会場		⑤帝国ホテル										
12422												

平成28年度より年に2回式典を開催。

都道府県別受賞者内訳

県名	第50回 までの累計	第51回 受賞者	受賞者数
北海道	658	2	660
青森県	180		180
岩手県	216		216
宮城県	388	4	392
秋田県	124		124
山形県	155		155
福島県	177		177
茨城県	201		201
栃木県	148	1	149
群馬県	243		243
埼玉県	471	1	472
千葉県	401		401
東京都	1,168	7	1175
神奈川県	624	2	626
新潟県	260	1	261
富山県	144		144
石川県	143		143
福井県	205		205
山梨県	134	1	135
長野県	201		201
岐阜県	216		216
静岡県	312	1	312
愛知県	315		316
三重県	164		164
滋賀県	100		100

県名	第50回 までの累計	第51回 受賞者	受賞者数
京都府	210	1	211
大阪府	488	4	492
兵庫県	518		518
奈良県	112		112
和歌山県	144		144
鳥取県	91		91
島根県	111		111
岡山県	306	1	307
広島県	414	1	415
山口県	272		272
徳島県	176		176
香川県	196		196
愛媛県	150		150
高知県	74	1	75
福岡県	546	2	548
佐賀県	131	1	132
長崎県	268		268
熊本県	228	3	231
大分県	127		127
宮崎県	73		73
鹿児島県	141		141
沖縄県	164		164
その他	94	6	100
合計	12,342	40	12,422

※受賞者数は、当財団設立の昭和46年からの都道府県別受賞者件数の累計

※県名は、受賞者居住地の都道府県名 その他は居住地が海外

※受賞者数は、こども読書推進賞受賞者、東日本大震災における貢献者表彰受賞者も含めての累計として
足した数。受賞者は件数は28件

※第48回の人命救助の功績の袋本将史氏（滋賀県） 伊藤修一氏（愛知県） 八木隆太郎氏（愛知県）は愛
知県1件としてカウント

※第50回の社会貢献の功績の広瀬紀子氏は愛知県、チヨチヨカイ氏は沖縄でカウントした

役員・評議員一覧

2018年9月1日現在

会 長	安 倍 昭 恵	公益財団法人 社会貢献支援財団
副 会 長	内 館 牧 子	脚本家、東北大学相撲部総監督
理 事	犬 丸 徹 郎	株式会社 和光 取締役執行役員
理 事	澤 井 俊 光	一般社団法人 共同通信社 ニュースセンター長
理 事	永 嶋 久 子	株式会社 資生堂 元取締役
理 事	三 谷 充	三谷産業株式会社 取締役会長
理 事	屋 山 太 郎	政治評論家
理 事	天 城 一	公益財団法人 社会貢献支援財団
監 事	篠 原 由 宏	篠原法律会計事務所、弁護士
監 事	中 村 元 彦	中村公認会計士事務所 所長
評 議 員	石 井 宏 治	株式会社石井鐵工所 取締役社長
評 議 員	井 沢 元 彦	作家
評 議 員	ロバート キャンベル	国文学研究資料館 館長
評 議 員	久 米 信 行	久米繊維工業株式会社 取締役会長
評 議 員	徳 永 洋 子	ファンドレイジング・ラボ 代表

公益財団法人 社会貢献支援財団

設 立：1971年5月1日
所 在 地：東京都港区西新橋1-18-6 クロスオフィス内幸町801
郵便番号：〒105-0003
T E L：03-3502-0910
F A X：03-3502-7190
U R L：<http://www.fesco.or.jp>

社会貢献者の記録

2019年3月15日

発行者：公益財団法人 社会貢献支援財団

印刷：ヨシダ印刷株式会社

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION